



火災避難訓練を実施しました

2学期末テスト終了日の11月22日(金)の4校時に火災避難訓練を行いました。今年度は4月11日(木)に地震避難経路確認、11月5日(火)にシェイクアウト訓練(地震避難姿勢確認)を行っており、今年度3回目の防災訓練となりました。

今回は、事前指導の中で以下のことについて確認を行いました。

- (1) 災害(今回は、火災)はいつどこで起こるかわからないため、日頃からの備えや心構えが必要であること
- (2) 火災時の“煙”の危険性について
 - ① 横方向(例:廊下)の煙は、混乱なく避難できれば、人の移動の方が速く、縦方向(例:階段)の煙は、人の移動の数倍も速いこと
 - ② 一酸化炭素と二酸化炭素はすべての火災で発生し、一酸化炭素は、体内へ酸素を運ぶ血液中のヘモグロビンに、酸素の200～300倍の速さで結合して酸素不足を起こすため、頭痛やめまいを起こし、中毒が進めば死に至ること(煙の中毒性)
 → ハンカチ(マスク)で口を覆い、煙より低い姿勢をとること
- (3) 避難経路と避難場所の確認 ★火災現場付近は通らない、近寄らないこと
 - 本校の火を扱う場所(教室) → ①調理場、②理科室(3教室)、③調理室 等
 - 避難場所は?避難に使う階段は?避難に使う出口は?避難中の通行上の留意点は?
- (4) 避難時の行動原則
 - 「お・か・し・も(押さない・駆けない・しゃべらない・戻らない)」
 - 校舎内は早足、校舎外は駆け足
 - 戸締りや窓閉めの判断(危険な場合は、閉めない)・確認等

今回の避難訓練は、事前に火災発生場所を子どもたちにも職員にも知らせずに実施しました。そのことにより、火災場所に応じた多様な避難経路を想定したり、その場で臨機応変に考えて避難経路を選択する経験を積んだりすることをねらいとしました。

上記□囲みの(2)については、ほとんどの子どもたちがマスクやハンカチを活用して避難しました。上記□囲みの(3)の原則に従い、子どもたちは火災発生時の場所から考えて最適と考えられる5か所の出口(↓写真参照)からそれぞれ校舎外に避難しました。また、上記□囲みの(4)については、普段の学校生活そのままに、迅速で混乱のない避難ができたと感じています。

やはり、普段の落ち着いた行動を習慣化すること、避難に関する正しい知識をもつこと、そして自分で考え判断する経験を積むことが大切だと実感しました。



【↑①1年4組前掃き出し窓から避難】

【^②③1階東出入口2か所から避難】

【←④正面玄関から避難】

【⑤オープンスペースから避難】

【運動場に避難完了→】

災害はいつ起こるか分かりません。今年度も5月28日(水)の中間テスト1日目終了後の下校のタイミングでの発令された大雨警報や、9月10日(火)夕刻に突如発令された洪水警報等がありました。また、8月8日(木)の日向灘を震源としたマグニチュード7.1の地震では南海トラフの巨大地震の危機を改めて実感し、防災への備えについての見直しを余儀なくされました。

避難訓練の最後の教頭先生による講評の際、「この週末に改めて防災についてご家族と話し合いをしておきましょう」と子どもたちに投げ掛けています。「天災は忘れたころにやってくる」です。日頃からの備え(防災グッズ、避難経路・集合場所等の確認)が大切です。